

中学生も大活躍、今年も「豊作じやあ！」

第12回越後よしかわやつたれ祭り、盛り上がる

越後よしかわやつたれ祭りは吉川区に住む若者たちが手づくりではじめた祭りです。豊作を祈願し、みんなの幸せを祈るためにペットボトルで稲穂竿灯をつくり、神輿もつくる。祭りは「なんでも積極的にやろう」という人たちの力で続き、今回は12回目となりました。

小学生の絵入り稲穂竿灯、初登場

会場は上越市吉川区の中心部、原之町商店街です。今年も稲穂竿灯づくりは広がり、吉川小学校では小学生のみなさんが総合学習の時間を活用して絵入りの稲穂竿灯を初めてつくってくれました。

祭りは午後からはじまりました。私はまずチェンソーカービングを見に出かけました。フクロウを彫っていたのは吉川区河沢在住の江村康成さん、チェンソーカービングを

始めてからまだ3年足らずですが、どんどん腕を上げ、あちこちで引つ張りだこです。市内で木彫りのフクロウを見かけたら、江村さんの作品と思つてよいくらいです。

次はよきこいソーラン。吉川区では「百華踊乱」というグループが日々練習を重ね、特養ホームの祭り、酒祭りなどで活躍してくれています。このグループには今年も新たな子どもたちが加わっています。踊りもたいしたものだけれど、グループを育て、継続していく力もすごい。最近流行している「天地人（あまちびと）」も披露されました。

暗くなつて稲穂竿灯のロウソクに火がともると祭りの中央舞台周辺はどんどん賑やかにになりました。写真はくじ引き、「さあ、今度は扇風機ですよ」司会が投げかける勢いのある言葉で会場は沸きました。



吉中 参上！

祭りがもつとも盛り上がったのは神輿です。子どもも神輿、大人神輿と続きました。神輿の数も増えました。今年、注目された神輿のひとつは吉川中学校の生徒さんたちの手作り神輿でした。「吉中 参上！」と書かれた神輿が通ると大きな拍手が起きました。神輿を担いでいる人も見ている人もうれしくなりました。やつたれ祭りにずっとかか

シリーズ 上越市内の橋

第47回 島田橋



「島田橋」と書いて「しまだばし」と読みます。関川にかかった橋で、旧上越市地域と板倉区をつなぎます。この橋の魅力は親柱。沖縄県宮古島の石灰

石で出来ています。長年にわたり宮古島の農民を苦しめた人頭税の廃止に力を尽くしたのは、板倉出身の中村十作でした。このことが縁で宮古島とはいまも交流が続いています。

橋長は127メートル。竣工は2000年（平成12年）11月です。

わつてきたMさんは、「吉中三年生の有志による神輿は、卒業すると離れ離れになる三年生に思い出になればと声をかけ、実現しました。これが伝統になり、一、二年生が引き継いでいつてもえればと思います。吉川を思い出し、この時期には帰省し、この祭りに参加して楽しんで、やりたい、吉川を誇りに思ってもらえるように、やつたれ祭りを続けていきたい」とのべていました。

今年の祭りの最後は、「まちづくり吉川」の田中臣一郎さんの音頭で「豊作じやあ！」の三唱でした。祭りが終わっても原之町商店街はしばらく熱気が残っていました。越後よしかわやつたれ祭りは毎年進化し、マスコミも注目しています。来年も大いに盛り上げたいですね。

※私のホームページの動画集に「百華踊乱」による「天地人」と大人神輿の模様を載せました。ぜひご覧ください。